

掲示板
こ〜じのう



発行所 (社福)千葉県身体障害者福祉事業団
千葉県千葉リハビリテーションセンター
発行責任者 高次脳機能障害
相談支援体制連携調整委員会
委員長 吉永 勝訓
〒266-0005 千葉市緑区誉田町 1-45-2
TEL 043-291-1831 (代)内178
発行日 2009年7月5日

も く じ

掲示板 第8号

巻頭	高次脳機能障害者への支援について	1
報告①	第一回高次脳機能障害支援普及事業委員会 全国連絡協議会・厚生労働科学研究報告	2~3
報告②	支援ガイドブックを引いて	4~5
	千葉リハを見学して	5
	プロジェクト班より	6
	研究会・勉強会報告	7
	まめ知識コーナー	7
	インフォメーション	8
	編集後記	8

高次脳機能障害者への支援について

ちばけんけんこうふくしぶしやうがいふくしか
千葉県健康福祉部障害福祉課
かちょう のりこし てつや
課長 乗越 徹哉



今年の4月1日付けで県障害福祉課長に着任した、乗越徹哉と申します。どうぞよろしくお願いたします。

高次脳機能障害者への支援については、医療機関での鑑別診断やリハビリテーションの充実のほか、障害者手帳の取得や障害福祉サービスの利用促進など、安心して地域生活を送ることのできる環境を整えることが重要です。

そのため県では、千葉リハビリテーションセンターを中核として、高次脳機能障害支援普及事業を行っており、今年度は、地域支援拠点を、現行の旭神経内科リハビリテーション病院のほか、新たに1箇所(場所は未定)増やすこととしており、身近な地域で支援を受けやすくする体制づくりを進めてまいります。

また、これらの事業と併せ、今年度から千葉リハビリテーションセンター更生園において、高次脳機能障害者の生活訓練事業を実施することとなりました。自立に向けた支援モデルを確立し、成果を県内全域に還元するためにも、この取組に期待しています。

障害のある方が、安心して地域で生活できるように、市町村や関係機関と連携しつつ、様々な施策を充実させていきたいと思っておりますので、引き続き御協力のほどよろしくお願いたします。

1 報 告

平成21年度
高次脳機能障害支援
普及事業委員会

平成21年度高次脳機能障害支援普及事業委員会を6/2に開催し、今年度は下記委員になりました。

【議題】

(1) 平成21年度高次脳機能障害普及事業について、事務局から今年度の事業方針を説明しました。その内容については、千葉リハホームページ(下記アドレスにて掲載)に掲載されています。

【報告】

(1) 厚生労働科学研究費について、今年度から新たに研究課題「高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究」で青少年期の就学支援について千葉県の太田が分担研究者として指名されました。

(2) 平成21年度千葉県高次脳機能障害リハビリテーション
シヨン千葉懇話会について、開催日は7月13日(月)18:30とし、今回は千葉市民会館 特別会議室を予約致しました。内容としては、講演として講師に先崎 章先生(東京福祉大学・埼玉総合リハビリテーションセンター)を招いて、仮題「高次脳機能障害者の精神症状について」お話ししていただくこととなりました。参加呼びかけ対象は医療機関のスタッフを中心としてご案内した結果、100名を超える申込みをいただきました。県内医療機関の関心の高さと広がりが実感(83名の申込み)できました。



第1回高次脳機能障害支援普及事業委員の様子

(3) 小児高次脳機能障害支援セミナーを平成21年9月12日(土)13時〜目黒パーシモンホール大ホールにて開催いたします。埼玉・東京・神奈川の支援拠点機関及び日本脳外傷友の会・ハイリハキッズ・後天性脳損傷児の家族の会「アトム」からも実行委員に参加いただきプログラム等を決めました。

(4) 今年度の支援普及事業のスケジュールを委員に手渡ししました。予定として、損保高次脳講習会が12月6日(日)、家族や当事者を中心として開催している交流会が平成22年3月6日(土)の日程で行うことと報告いたしました。

(5) 高次脳機能障害「明日の一步のために」支援ガイドを5000部印刷しました。

(6) 平成20年度事業報告書についてはすでに最終印刷にとりかかっており、出来次第関係者機関に配布をいたします。

普及事業委員会 事務局

【平成21年度高次脳機能障害支援普及事業委員一覧】

委員長	吉永 勝訓(センター長)
委員	荏原 実千代(第一小児神経科部長)
	加藤 直子(第二リハ科部長)
	太田 令子(地域連携部長)
	宮前 信彦(リハ療法部長)
	小滝 みや子(更生園支援部長)
	今野 真由美(看護師長)

全国の動き

全国連絡協議会及び厚生労働科学研究報告

千葉県千葉リハビリテーションセンター
地域連携部 相談室 森戸 崇行

■平成21年度高次脳機能障害支援普及事業 第1回支援拠点機関等全国連絡協議会及び厚生労働科学研究費「高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究」第1回全体会議

日時 平成21年7月1日(水)

場所 国立障害者リハビリテーションセンター学院

7月1日に行われた本会議は、「平成21年度運営方針」、「高次脳支援普及事業平成20年度事業報告及び21年度事業報告」を中心とした内容でした。(事業の大枠は前年度と同様に実施となっています。)

- 高次脳機能障害支援普及事業実施要綱に基づく事業として
- (1) 支援サービス提供体制の均：支援拠点機関未設置県の解消 (現在41都道府県が支援拠点機関を設置) ※地図を参照ください
- (2) 都道府県ごとの支援ネットワーク構築と支援技術の普及
- (3) 認知リハビリテーションの技法確立と評価尺度開発
そして新たなこととして、
- (4) 支援コーディネーター会議の開催 がありました。

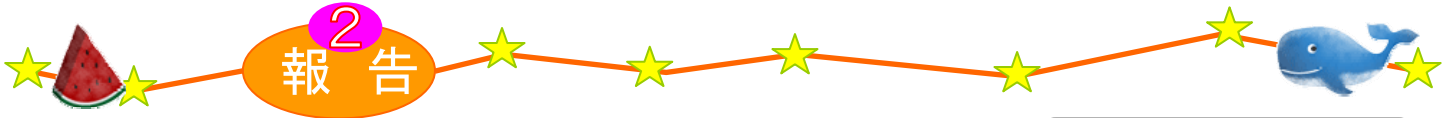
これは、各支援コーディネーターが他の支援コーディネーターと支援に関する情報及び意見交換の場を持つ、行政的実態調査の実施を目的とした現場の支援コーディネーターが中心となって支援の質の向上や高次脳機能障害を持つ方の生活拠点が都道府県を問わずとも支援が途切れない体制作りにもつながることにもなるのではないのでしょうか。厚生労働省科学研究費における研究の実施要領については次の3点が挙げられています。

- (1) 認知リハビリテーションの医学的評価と技法と評価尺度の開発
- (2) 高次脳機能障害をもつ小学生、中学生、高校生の年齢層での就学
- (3) 失語症をもつ障害者の自立と社会参加に関する実態調査を実施していく予定

この他厚生労働省から、高次脳機能障害をもつ方の支援が自立支援法による支援の対象となることを今年度中に通達するという説明がありました。こうした通達は、支援機関への説明に活用できるものであり、結果的に利用できる機関を増やしていくことにつながっていくひとつの根拠となる材料でもあります。

高次脳機能障害支援拠点機関所在分布





2 報 告

「高次脳支援ガイド パンフレットを手にして」

私は千葉市障害者福祉センターで事務を担当している石井と申します。

はじめに当センターについて、紹介したいと思います。

当センターは千葉市中央区にある千葉市ハーモニープラザ内にあります。プラザには他に千葉市女性センターや千葉市ボランティアセンター、千葉市障害者相談センターなどがあり、幼児を連れたいお母さんや高齢者、学生などの方々が様々な目的をもって来館する複合施設です。

その中で当センターは身体障害者福祉センターB型として、平成11年12月にオープンし、今年で10年になる施設です。

身体に障害のある方に機能訓練、スポーツや創作活動の講座を開催したり、多目的ホールや屋外スポーツ広場の貸出、福祉機器の展示、水浴訓練室の利用、この他にも様々な事業を行っています。

今回の新しいパンフレットが送られてきて、まず感じたことは「高次脳機能障害について、とてもわかりやすく書いてあり、また悩みや不安を抱えている方の手助けになる」ということでした。

パンフレットには高次脳機能障害についての症状やどのように当事者の方と接していけばいいのか、そしてどこに相談し、支援を受ければいいのか、とてもわかりやすくまとめられています。

「高次脳支援ガイド パンフレットを手にして」

昨年の6月から取り組んだ「高次脳機能障害支援ガイド」が4月に出来上がりました。今回のパンフレットは、県内の福祉施設689件に一次調査のアンケートを発送し、二次調査では67か所に直接訪問して施設の様子など2カ月に渡り、家族会の方々と一緒にお話を伺いました。

その訪問先は日中活動の場として後半ページに掲載しています。

全国の病院・施設・行政等からは、今後の資料の参考や勉強会に使用したいと再発送の連絡をたくさんいただきました。ありがとうございます。パンフレットを手にして・・・実際のよう感じたか寄稿していただきました。

高次脳機能障害支援ガイド

パンフレットを手にして



職場内で回覧したところ、職員からも非常にわかりやすくまとめられているから、追加で送ってもらおうと頼もうと声があがり、早速千葉リハビリテーションセンターにお願いのメールをしました。

当センター受付近くで一般の方からも見やすい場所にパンフレットを置いたところ、他の福祉関係パンフレットに比べて、非常に早くなくなっており、さらに追加が必要かと思っています。

高次脳機能障害は身体障害に比べて、まわりから見にくい障害といわれています。

パンフレットではそのまわりから見にくい「行動と感情の障害」、「遂行機能障害」、「注意障害」などの症状のために当事者本人がどのように考え、苦しんでいるのか、その家族や周りの方はどう悩んでいるのか、そしてその支援方法について説明しており、当事者や家族はもちろんです、まったく知らなかった方にも高次脳機能障害とはどういう障害なのか、理解してもらえないのではないのでしょうか。

高次脳機能障害は映画の題材に扱われていたり話題にはなっているのですが、一般的にはまだあまり知られていない状況です。

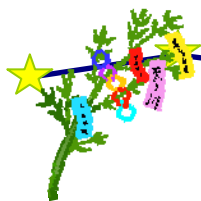
教職課程の実習生に高次脳機能障害について話をしたとき、症状によっては怒りっぽくなり性格が変わってしまったり、当たり前でできることができなくなってしまうということを初めて知り、驚いたという学生がほとんどでした。

このパンフレットをきっかけに高次脳機能障害を抱える方の苦しさ、また家族や周りの方の苦悩を大勢の方に理解してもらい、暮らしやすい社会になるよう当センターも協力していきたいと思えます。

千葉市障害者福祉センター 石井

支援ガイドを手にして最初に感じた事は、この冊子を主人が脳出血で倒れた時、或いはそれ以前に手にする事が出来ていたら心強かったのにと言う思いでした。

前回の冊子も、一般の方に高次脳機能障害がイメージし易く医療機関の情報も掲載されていましたが、今回の冊子では貴重な福祉施設の情報も得られ、日常生活の場にも利用できる施設があるという事、それは又この様な施設が増えると言った可能性がある事を感じさせてくれるうれしいものでした。スタッフや家族会の方々が福祉施設へ足を運んで情報収集された事に感謝いたします。



そして、この冊子の表題に記されている「明日の一步のために」の言葉の様に、支援機関のみならず、家族や当事者に近い相談窓口やソーシャルワーカーの方々が活用される為に、隅々まで行き渡って欲しいと思います。
又、この貴重な情報がさらに活かされる為、何らかの方法で行政機関等にも共有され、新たな情報が追加更新されて行く事を切に望みます。

横山里美

『高次脳機能障害 支援ガイドを利用して』

高次脳機能障害は、外から見えない障害ゆえに、当事者が理解を得られづらい障害であると考えています。その局面に接するのは、殆どが退院してからであり、病院職員や関係者だけではなく、社会全体に広くこの障害が理解される必要があります。

今回の支援ガイドは、高次脳機能障害の症状や対応方法に加え、県内の支援機関一覧が記載されており、当事者にとつての身近なガイドとしてはもちろんのこと、地域住民の啓発にも有効だと思えました。当院ではローマカジンラックに公開して間もなく、配布された冊数がなくなり、関心の高さが伺えています。

今後も、当事者がこのガイドを手元に置きながら自ら困難を切り開けるよう、利用可能性のある社会福祉制度の情報発信もあわせて、支援を続けたいと思います。

亀田総合病院

ソーシャルワーカー

佐藤 杏



支援ガイドをご希望の方は、下記メールにて必要箇所をご記入の上ご連絡ください。
kouji@chiba-reha.jp

■千葉県千葉リハビリテーションセンターを見学して

医療法人 光心会 諏訪の杜病院

作業療法士 浅倉 恵子

諏訪の杜病院は、リハビリテーションと人工透析を中心に様々な疾患を有する患者さんに対し、社会復帰と人間らしく生きる権利の回復を目標に様々な支援を行っている医療機関です。私どもが高次脳機能障害で悩んでいる当事者、家族の方々と本格的に関わらせて頂くようになったのは、平成17年8月に大分県の家族会や医師、コメディカルなどが中心となり設立した大分県高次脳機能障害連絡協議会での活動が始まりでした。その当時は、まだ高次脳機能障害に対する理解も不十分で試行錯誤していたことを覚えています。平成19年10月には、大分県高次脳機能障害がい支援拠点機関の指定を受け、地域生活や就労、就学など社会参加に向けての支援や啓発活動に取組んでいます。

相談事業では、年齢や経過など様々な方からの相談が寄せられており、中には小、中学生と若い対象者も増えてきています。

子どもの場合、成長も著しく反抗期など様々な変化が生じてくる中で、日々リハビリテーションの難しさを感じています。千葉リハビリテーションセンターでは、小児の高次脳機能障害リハビリテーションプログラムを立ち上げ、評価から診断、就学までの支援を徹底していました。私たち医療機関だけでは支援に限界があること、学校や地域との連携がとて大切なことなどたくさんこのことを学び、1人でも多くの高次脳機能障害を呈する方が社会参加できるように、これからも取り組んでいきたいと感じました。とても貴重な時間を頂き、本当に有難うございました。



5/20 諏訪の杜病院【右から3番目、左から4番目】の方を囲んで

■市町村相談支援班
平成21年度市町村保健福祉主管課長会議における
事業説明参加報告

県が主催している市町村障害保健福祉主管課長会議の
関係各課・関係機関からの説明で、「高次脳機能障害支援
ガイド」を配布し、説明をさせていただきました。10分
程度の時間ではありましたが、この支援ガイドを活用し
ていただきたいことと高次脳機能障害の特徴などにもふ
れて話をしました。市町村の窓口は地域の相談窓口とし
ての役割を担うところですので、よりいっそう高次脳機
能障害に対する理解を深めていただくとともに、このよう
な機会を得ていくこととしたいと考えております。
また、市町村の担当の皆様からの「支援ガイド」を活
用いただいての意見などもぜひお聞かせいただければと
思いますので、よろしくお願いたします。

地域連携部 森戸

高次脳機能障害者と障害者手帳

- 高次脳機能障害の診断により、「精神障害者保健福祉手帳」の申請対象になります。
- 身体障害者手帳を取得されている方でも、生活のしにくさの主たる要因が身体機能面でなく、高次脳機能の面である場合もあります。

7

こんな風を感じている？



9

情報を理解し、整理することの障害

- 同じ意味のことで、言われ方が少し違うと混乱してしまう
- 関連付けて考えることが苦手
- 自分で描いているとおりに物事が進まない、混乱する
- 周囲からすると、自分本位の解釈が多い傾向がみられるため本人の思いと周囲の感じ方のギャップが大きくなる

どう対応したらいいのさう??

接し方や対応方法の工夫や理解によるサポートが必要です。

わからない不安がいっぱい!!

10

プロジェクト・班だより

このコーナーでは
千葉県高次脳機能障害支援センターの活動を時
報告していきます

本人にわかりやすく伝えるための、工夫をお願いします

より短く

よりやさしく

より明確に

たとえば

必要なこと(今後の流れ・手順など)を

紙に書いて渡す など

(渡した日付を忘れずに!!)

12

千葉リハコーディネーターと太陽の丘ホーム職員の皆様、および周辺支援機関の皆様と2か月に1回 高次脳機能障害者の支援に関する症例検討会を開催しています。今回は、その内容を報告していただきました。

■太陽の丘ホーム高次脳機能障害事例研究会

当施設には、身体障害・精神障害・知的障害・高次脳機能障害・認知症・遷延性意識障害をお持ちの方、吸引を含めた医療行為を伴う方、複雑な生活背景をお持ちの方など様々なご利用者がいらつしやいます。また、時間の経過とともに加齢も重なり、それぞれの障害も重度化しております。

そのような中、ご利用者お一人お一人に最適な生活を営んで頂くためのアプローチ方法を学ぶ機会がないものかと悩んでおりましたところ、千葉リハビリテーションセンターの森戸様とご家族会の方より、この事例研究の取り組みについて願ってもないお話をいただきました。

お忙しい中、心理発達治療士の太田様とSWの森戸様に当施設まで足をお運び頂き、大変有難う御座います。私たちの疑問や悩みに真摯に耳を傾けて下さるお二人の姿に励まされ、取り組む勇気が湧いてくるのを感じます。

また、事例研究会を通じて学ばせていただいたことを具体的に実践していく中で、ご利用者の生活に落ち着きが生まれ、成果となって現れていることを実感し、そのプロセスを通じてご利用者やご家族との良好な関係を積み上げていくことにも繋がっております。この事例研究会には、私共の取り組みに賛同され、ご利用者支援に同じ悩みを持ちながら日々取り組まれている多くの方々が参加されました。共に学び、今後の連携を深めていくための貴重な機会とさせて頂きたいことに深く感謝いたします。

職員一同、出来る限り良いアプローチ方法を探っていきたいと思いますので、今後共、宜しくお願い申し上げます。

障害者支援施設

太陽の丘ホーム

生活相談員

伊藤 晃子



【太陽の丘ホームでの取組みの様子】

施設スタッフに限らず、地域の支援機関の方々にも声をかけていただき多くの方が参加されています。私どもにとっても、多くのことを学ばせていただく機会となり、大変ありがたい機会です。

千葉リハ森戸

■東葛菜の花勉強会 高次脳機能障害者集団リハビリテーション・羅心版の紹介に に参加して

私の主人は、優しく穏やかで心から尊敬できる最高のパートナーでした。

2年前の7月までは…

突然 脳梗塞で倒れ生死の境を彷徨い、左半身麻痺と高次脳機能障害となりました。

リハビリの病院を含め10ヶ月後やっと自宅に戻れました。その間、私達家族は一日も欠かさず病院に行き些細な事にも一喜一憂したものでした。退院した頃は、家族全員揃った喜びで過ぎましたが、四六時中一緒にいるとお互いにストレスが溜まり主人に対しても優しく出来るはずありません。徐々に現実の重さを痛感し、将来への不安で私の心は暗闇へと向って行きました。そんな時、高次脳機能障害者と家族の会 東葛菜の花に入会しました。

今回、橋本先生の羅心版に参加させて頂き、「周りの人が理解することで、いつでもどこでもリハビリの効果が期待できる」と聞いて、まず私が現実を受け止め根気強く温かく見守れる様に成りたいと思いました。また、和田 原さんの「いつからだろう」の詩を読ませて頂き、まさに主人の心の叫びそのものだと思えば涙が止まりませんでした。やはり、一番辛いのは本人なのです。現在、休職中ですが近々訪れる退職の日をどの様に受け止めるかが一番の気がかりです。何よりも仕事が大好きでしたから…。

島田 滋子

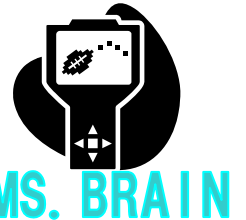


東葛菜の花勉強会の様子09.6.28
松戸市健康福祉会館ふれあい22にて





こちらでは、障害に焦点をあてた中で生活で使える訓練をまめ知識として掲載していきます



「脳トレ」ブームは今も続いているようで、最近では脳科学をテーマにしたドラマも人気があるようです。ただ、「脳トレ」の必要性を分かっていても、忙しい毎日で、せっかくな買ったゲーム機や100ます計算などがいつの間にかほこりをかぶっていることはないですか？あえて「脳トレ」を行おうとすると、時間も気力もないのが現状だということも多いはず。今回は日々のお料理が「脳トレ」になることをご説明したいと思います。

お料理と一言でいっても、その過程はいくつもあり、①献立を考える②お買い物をする③材料を洗ったり、切ったりする下ごしらえ④材料を炒めたり、焼いたり、煮たり⑤盛り付ける⑥後片付けなど、とても多くの作業があるのです。

料理を行うことは右半球の前頭葉の働きが重要だといわれています。前頭葉の大部分を占める部分で前頭前野といわれる場所があり、これは人間だけが特別に発達している部分です。想像力、記憶力、コミュニケーション力、自制力などを司っているといわれています。お料理と脳がどうして関係あるのと思われるかもしれませんが、お料理の献立を考える、材料を切る、炒める、盛り付ける、いづれの段階でも前頭前野が活性化することも証明されています。

では、難しく凝ったお料理の方が前頭前野の活性化になるかというところでもありません。りんごの皮をむくことだけでも、前頭前野は活性化されることがわかっています。ただ、ピーラーを使って楽しんでしまうと、活性化しないこともわかっています。ですから、できるだけ包丁を使うことが脳トレとなるようです。

毎日のお料理をきつちりやろうとすると負担かもしれません。でも、お料理のどの過程でもいいので、自分で出来ることを毎日、無理なく続けることも「脳トレ」になるんですよ。

【参考文献】「川島隆太教授の脳を鍛える大人の料理ドリル 料理の基本テクニック30日」 くもん出版

作業療法士 前島 潤子

小児高次脳機能障害支援セミナー

小児支援の交差点～北から南から、医療から教育、福祉から教育～

日時■2009年9月12日(土)13:00~16:30
 会場■目黒パーシモンホール Tel03-5701-2924
 東京都目黒区八雲 1-1-1
 参加費■500円(資料代として)
 内容■家族の思いを伝える・小児の診断について・小児支援の実際・小児の就学支援・小児支援の初めの一歩・小児をめぐる全国の動き
 問合せ■千葉県千葉リハビリテーションセンター地域連携室
 Tel043-291-1831(代)内線 183



◆ 編集後記 ◆

■ 高次脳機能障害の方から、1枚の紙にその日のプランを書き、その隣に実行したことを記入することを勧められ、実践してみました。いざ、やってみると、1日の行動を確認し、準備できるのですが、実行したことを書くこととすると意外と覚えていないのです。ねえ。短いながら日記もつけているのに、どうしてだろう？

先日、ふと夜空を見上げるときれないな月様。さすがに「月が二つ!」なんて事にはなりませんでした。

(Yさん)、私も9割の誤解組み!! 間違えていたとは露知らず…(M)

■ 世の中、梅雨の真つ最中ですが南の方は豪雨で土砂崩れが起き大変な被害が出ています。そんな梅雨の時期、七夕があります。七夕の語ってみなさん知っていますか。知っているつもりが誤解していたことってありますよね。私もその一人でした。実は、織姫と彦星は夫婦だったんです。結婚してもそれぞれの仕事を怠けてしまい、それを知った織姫の父が罰として二人を引き離した。ただし、年一回天の川をはさんで会うことを許された。これが本当の話。某飲料メーカーがアンケートをとったところ9割の人が恋人同士だと誤解していたことが判明! さてあなたの記憶は正解ですか? (Y)

こ〜じのう掲示版ではご意見、ご感想、情報をお待ちしております! お送り頂いたもの掲示版に役立てていきたいと思っております。
kouji@chiba-reha.jp